第39回「小さな親切」はがきキャンペーン

こころのエッセイコンテスト

“あのときは ありがとう”。
心にほんわかと灯がともる、そんな瞬間がきっと誰にでもあるはず。
身近にある出会いや何げない一言など、
些細な事でもあなたの心を動かした、
眠ったままの思い出を書いてみませんか。
改めて思い返せば、その大切さに気づくことでしょう。
今回は、長く続いていたコロナ禍での
つらい思いや不安な時期を支えてくれた言葉や心の交流など、
落ち込んでいた心を救ってくれた体験エピソードを募集します。
応募作品は書籍に収録される場合も。手書きで綴るはがき、
書き慣れたメールなど、表現しやすい方法でぜひご応募ください!

テーマ
心から伝えたい ありがとう

特別テーマ
私の心のワクチン

対象　子どもから大人まで

しめきり　2023年 **9月4日(月)**〈必着〉
詳しい応募要項は裏面をご覧ください

あなたの応募作品も本になる!?

これまで、数多くの応募作品が河出書房新社より単行本や文庫本となり、書店で発売されています。あなたの思い出が本となり、読者に感動を与えるチャンス! 自分の作品が本になる、そんな夢にチャレンジしてください。

主催：公益社団法人「小さな親切」運動本部
後援：日本郵便株式会社／読売新聞社
協賛：株式会社河出書房新社

発行：株式会社河出書房新社

第39回「小さな親切」はがきキャンペーン

こころのエッセイコンテスト

応募方法

いずれかのテーマにそった体験とタイトル、住所・氏名（ふりがな）・年齢・職業または学校名・電話番号を明記の上、下記方法でご応募ください。

はがきから

文字数は、はがき1枚に収まる程度、手書きでなくても可。郵送で応募。テーマ氏名等は文字数に含みません。

メールまたはフォームから

専用メールアドレスまたは、「小さな親切」運動本部WEBサイト内応募フォームから応募。文字数は600字以内（はがき1枚相当）。

※応募作品は自作・未発表のものに限ります。
※応募作品の所有権及び著作権は、公益社団法人「小さな親切」運動本部に属し、応募作品は返却いたしません。
※応募作品は当団体WEBサイト及び情報誌『小さな親切』等で紹介することがあり、その際作品のタイトル変更及び補作を行うことがあります。
※入賞・入選全作品は、本部発行の作品集に収録されます。
※選外作品も書籍発行時に作品収録の可能性があります。なお、その際は事前に通知いたします。
※作品応募にあたってご提供いただきました個人情報は、コンテスト運営上必要な利用目的の範囲内（入賞者へのご連絡、賞状及び副賞の発送、新聞・WEBサイト・作品集における発表等）において利用いたします。

送り先

公益社団法人「小さな親切」運動本部
はがきキャンペーン係
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL：03-3263-2866　FAX：03-3263-3838

メールアドレス　hagaki-oubo@kindness.jp
WEBサイト　https://www.kindness.jp/

入賞発表

2023年11月上旬
読売新聞および情報誌『小さな親切』、「小さな親切」運動本部WEBサイト等で発表

表彰式

2023年11月24日（金）
全国表彰式席上

賞

大賞……1名
日本郵便賞……1名
読売新聞社賞……1名
河出書房新社賞……1名
審査員特別賞……1名
入選……20名

副賞

上位賞……切手・図書カードなど
入　選……図書カードなど

第38回はがきキャンペーン
読売新聞社賞受賞作品

「あの日の双子ベビーカー」

平成最後の夏に、双子を出産した私。それからは怒涛の日々だった。

「一歳まで頑張れば楽になるよ」

周りにそう言われてがむしゃらに一年頑張ったけれど、ちっとも楽になんてならなかった。とはいえ、腰が据わり、つかまり立ちもでき、夜泣きも減り、楽になった部分もある。でも、食事は一日三回幼児食作って食べさせるより、母乳とミルクだけのほうが楽だし、歩けるようになると行動範囲が広がって大変だった。

その日も、理由もわからずに泣く双子をベビーカーに乗せ、とりあえず家を出たが、靴下を脱いでポイする双子に気を取られ、溝にベビーカーのタイヤを脱輪させてしまった。

双子は無事だったが、双子ベビーカーは重くて奮闘していると、サッと中学生が走ってきた。脱輪したのは、中学校の校庭脇だったのだ。彼は友人を呼び、あっという間に溝からタイヤを出してくれた。

「本当にありがとう。授業中？」

「部活中だから、先生に言ってきた」

「こいつも双子なんすよ」

「自分は双子で良かったけど、親は大変だったんすね。双子、おもろいすよ」

そう言って、彼らは戻っていった。彼らとのわずかな会話の間に、双子は泣き止んでいた。すぐに駆けつけてくれた彼らの思いやりが、心にしみた。そうか！　双子、おもしろいか。いっちょ、頑張ってみるか。

この夏四歳になった双子は、とても仲良しだ。双子で良かった、そう思ってもらえるように、これからもママ頑張るよ。

あの日の少年たち、本当にありがとう。

受け継がれて…
60周年
"小さな親切"運動

人をつなぐのは、
日々の生活にある
ほんの小さな親切や
思いやり。
そんな豊かな心を、
これからも
未来へつなげます。